建材臭対策

●快適に、そして安心してお住まいいただくたくために次のことに注意してください。

- 適切な換気を心がけてください
- 換気設備の維持管理に配慮してください
- 化学物質の発生源となるものをなるべく減らしてください

換気に関する注意事項

●連続運転が基本

24時間換気システムは常時連続運転が基本です。新築当初や増改築直後などは、室内の化学物質の放散が多いので、ご入居後しばらくの間は換気や通風を十分行うよう心がけてください。

●通風への配慮

気候条件や外部環境条件が許す状況においては、窓開けによってより多量の通風を心がけてください。窓開けは喫煙などに対応して急速に換気を行う必要がある場合に有効な換気手段であり、建築物の屋内全域にわたる通風は空気質の向上のためのみではなく、冷房エネルギーを節約し室内の快適性を向上させる効果があります。ただし、一部の窓だけ開放しても窓が閉まったままの居室の空気質はなんら向上しないので注意してください。

●室内湿度への配慮

住宅室内の相対湿度は高すぎても低すぎてもいけません。高すぎると結露やカビ発生の危険性が増し、低すぎるとカゼをひきやすいなどの弊害があります。その目安としては、40～60%が参考となります。加湿器を使用する場合は器具の取扱説明書に従い、室内湿度を目安の範囲に保つことが必要です。

換気設備の維持管理に関する注意事項

24時間換気システムは、各機種を適切に維持管理し、その機能を発揮させることが重要です。

●各機器のメンテナンス

換気扇、給気口などは定期的に清掃してください。（住まいのメンテナンス編の「各機器のお手入れ方法」を参照してください）

●家具などの配置

室内の空気は、給気口から排気口へ居室全体を満遍なく流れることが望ましく、気流の妨げになるような家具の配置を避ける必要があります。とくに換気扇や給気口を塞いでしまうような家具の配置は、換気システムを経由する空気の流れを止めてしまうので絶対に避けてください。

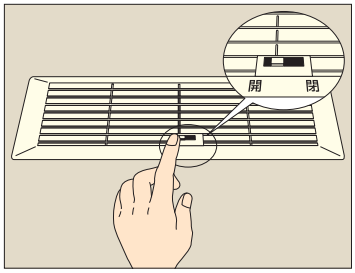
発生源に関する注意事項

室内汚染物質の発生源になるものを持ち込まない、十分な通風、換気を行う等の配慮が必要です。

- 室内汚染物質の発生源になるものを持ち込まない、十分な通風、換気を行う等の配慮が必要です。
- 新しい家具やカーテン、じゅうたんも化学物質を放散するものがあるので注意が必要です。
- 家具や床に塗るワックス類には、化学物質を放散するものがあるので注意が必要です。
- 開放型ストーブ、排気を室内に出す暖房器具（ファンヒーター等）の使用は避け、排気を外部に出すもの（FF式ストーブ等）など、室内空気の汚染が少ない暖房器具の使用が望ましいです。このことは湿度に対して配慮するという点でも効果的です。
- 芳香剤、防虫剤、消臭材、洗剤なども発生源となることがあります。
- 香水、化粧品、整髪料なども影響することがあります。
- 室内でタバコを吸うことは避けたほうが望ましいです。
- 室内の湿度が過度に高くなる場合の要因として、植物、水槽などさまざまな水蒸気発生源があります。

内装建材から発生するホルムアルデヒド等の有害なガスによる、健康への影響が問題となっています。内装部材には有害ガスの放出の少ない材料を使用しています。しかしホルムアルデヒドは、カーテンやカーペットに含まれる場合があり、とくに本棚やタンス、ベッドなどの木製家具、また衣料用防虫剤、喫煙、ワックスは大きな発生源となります。こうしたガス濃度は、新築の直後や、夏の高温時、長期不在後の帰宅時等に高くなります。建材臭が不快に感じられたら、室内を十分に換気してください。

24時間換気システムの活用



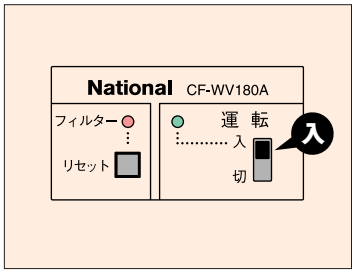
通常の運転時には給気口の開閉つまみが「開」になっていることを確認してください。またお出かけ中も運転しておいてください

窓開け換気の方法

部屋の2面以上の窓を同時に開けてください

レンジフードの換気扇を強運転にして、対面の窓を開けてください

空質ユニットの活用



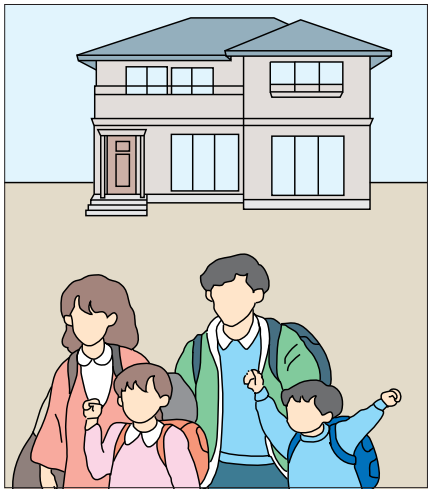
ツーユー にお住まいの方　空質ユニットは常に運転させておいてください

家具からの建材臭防止

店頭展示品のうち、内部の臭いを実際に嗅いでみて、不快臭の少ない現品を選びます

ベビー箪笥や食器棚の場合、製品安全協会の策定した「SGマーク」の付いた認定品ならば、比較的低放出の部材が使用されています

●旅行などで長期間家を空ける場合、次のことを行ってください。

- 漏水を防ぐため、水道の元栓を閉めてください。
- 火災を防ぐため、ガスの元栓を閉めてください。
- 室内ドアを開けておいてください。
- 結露やカビを防ぐため、押入れを開けておいてください。
- 換気のため、各居室の給気口を開けておいてください。
- 換気のため、24時間換気システムのスイッチは「ON」のままにしておいてください。

● 電気ブレーカーを落とすと、給湯器などの凍結防止ヒーターや留守番電話が使えなくなり、冷蔵庫内の食品が腐ります。留守にする期間の長短および季節により、ブレーカーを落とすかどうかをご判断ください。